明治夜話

(44) 鶴ケ城

今号から、この「明治夜話」は〈鶴ケ城の女達〉という題で、十四回ぐらいにわたって話がすすめられます。

女傑第一号の山本八重子をはじめ、順次数十人におよぶ女性が登場します。

なお右のカットは、明治元年、敗戦直後の「鶴ケ城」の写真を使用したものです。

鶴ケ城の女達(一)

阿達義雄

I 急を告げる会津鶴ケ城

明治元年の戊辰戦争の最中、会津鶴ケ城の攻防戦に古今に類例のない女丈夫が現われた。

これは飯盛山で自刃した白虎隊や、薙刀をもって奮戦した会津娘子隊の華々しい光輝に押されて、今迄の女性史などにも全く看過されていた女性であった。

時は明治元年八月廿日、二本松を出発した薩摩・長州・土佐・大垣・大村諸藩の約三千人の新政府軍は、会津藩の最も防備の薄い石筵口を破り、会津軍の抵抗を排して昼夜兼行の強行軍を続け、二十二日の朝には早くも若松郊外の戸の口原に押し寄せた。このため会津のこの方面の防備はいよいよ危殆に瀕していた。

敵のこの急襲に狼狽した松平容保公は、その頃国境方面に出動していた会津藩の諸隊を呼び戻すため、各方面に急使を走らせると共に、士中白虎隊を緊急召集し、自ら之を率いて滝沢峠に赴き、敵の進攻を食い止めようとした。だが、新鋭火器を持つ敵の大軍である。じりじり押しまくられ、前線に進撃した白虎二番隊は散り散りになってしまい、二十三日の朝、容保公は僅かの護衛兵と共に、幸うじて鶴ケ城外郭の甲賀町口に馳せ戻った。城中に残っていた白虎一番隊が之を迎え、主命によって甲賀町口の郭門で奮戦したが、圧倒的多数の敵軍とその新鋭小銃のため、或は傷つき、或いは四方に追い散らされてしまった。

この時、会津藩の精兵は、みな越後口、白河口、日光口の各方面に出払っていて、城内に残っていたのは老幼婦女と非戦闘員の文吏などばかりであった。

鶴ケ城の危急を告げる割場の警鐘が殷々と打鳴らされ、家中の婦女子は続々と三の丸へと入城してきた。その中には子供を連れている女、赤んぼうを抱えている女、老人を背負っている者など様々であったが、若い女は大抵その腰に大小刀を差し込み、薙刀を小脇に抱えて繰り込んできた。

これらの中に、唯一人、男装をして、七連発のスペンサー銃を肩に担いで、颯爽と入城してきた若い女性があった。これは白虎隊に小銃の射撃法を指導したと伝えられている当年二十四歳の山本八重子であった。

この時、城内に残っていた小銃は火縄銃又はこれに類する和銃であって、藩主守護の士中白虎隊の持っている銃にしてもヤーゲルという旧式な銃であった。

しかるに、この若い女性が最新元込式の七連発の小銃を担いで、城に乗り込んで来たということは、実に驚異に値することであった。

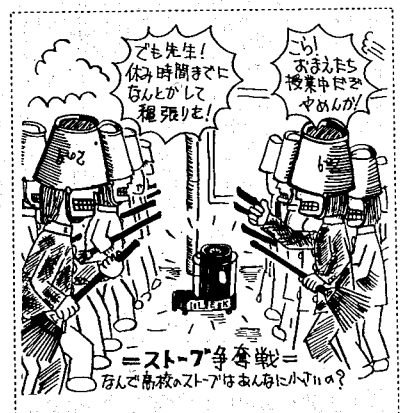
では、その時の八重子の覚悟や城内の様子を彼女の言葉を借りて紹介してみよう。

「私の実家は会津侯の砲術師範役でございましたので、御承知の八月二十三日、愈々城内に立籠ることになりました時、私は着物も袴も総て男装して、麻の草履を穿き、両刀を手挟んで、元込七連発銃を肩に担いでまいりました。

他の婦人は薙刀を持っておりましたが、家が砲術師範で、私もその方の心得が少々ございましたから、鉄砲にいたしたのでございます。それは弟の三郎と申しますのが、その春、山城国鳥羽の戦で討死いたしまして、その形見として着物と袴とが着きましたから、私は弟の敵を取らねばならぬ、私は即ち三郎だという気持で、その形見の袴束を着て、一は主君のため、一は弟のため、命の限り戦う決心で城に入りましたのでございます。」(明治四十二年十一月発行『婦人世界』所載)

なお、八重子の兄、軍事取締役兼大砲頭取であった山本覚馬は、この頃、京都で捕えられ、四条河原で処刑されたという噂があった。(実際は薩摩藩の者によって軟禁されていた。)

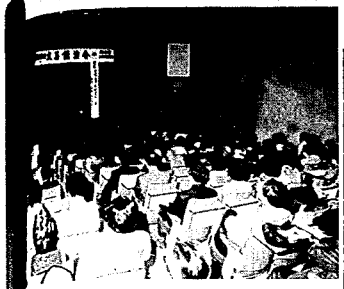
(新潟大学名誉教授)



新津高校マンガクラブ
長谷川淳一(2年)

お買物、ご用命は市内で

電話一本で国内・世界(144ヵ国)にお花がおくれる
社団法人JFTD
こうしてお花がおくれます。
電話ファクシミリ 強力ネット (NEC・模写電送装置)
注文 → 農家りの会員花店 → JFAX 連絡 → 届け先の会員店 → 配達
相互信頼
お客さま / お届け先
誕生日・結婚祝・記念日・見舞・法事・葬儀・季節行事などに御利用ください。(2,000円から)
全国の花店で使用できるフラワーギフト券発売中(530円)
(株)川名花店 本町3丁目 ☎3-1187(代)



盛会だった文芸祭講演会

今年も文芸祭を記念して、講演会が先月23日に図書館で開かれました。

今回は俳句作家の石原八束さんが、良寛や五峯、秋艸道人などについて、俳句を中心とした三者のつながりや人間性などを熱心に講演しました。

これくらいと思う油断を火が狙う

火の元には十分ご注意を

これから冬にかけては、石油ストーブなどの暖房器具を使うことから、一年のうちで最も火事の多い季節です。火災の原因をみると、トップは相変わらずタバコで、暖房器具の中で一番多いのは、なんといっても石油ストーブです。

石油ストーブの安全な取扱い方や、防火への心がまえをもう一度確かめましょう。

石油ストーブによる火災の原因は、火を消さずに給油したり、出入口など人のよく通るところに置いて転倒させたり―といった取扱い上の不注意によるものがほとんどです。

暖房には欠かせない石油ストーブですが、取扱い一つで恐ろしい〝火魔〟に一変します。日常の取扱いには次の点に特に気をつけてください。

給油する場合は…

▽灯油を入れるときは、必ずいったん火を消す。火をつけたまま補給するのは危険です。

▽給油中にこぼれた油は、よくふきとる。

置き場所は…

▽カーテンやふすまなど燃えやすいもののそばや、上から物が落ちるかもしれないたなの下などには置かない。

▽人の出入口や通路などは転倒の危険があるので避ける。

▽移動させる場合は、いったん火を消す。

周囲の状況は…

▽新聞や雑誌など燃えやすいものはそばに置かない。

▽ヘア・スプレー、マニュキュア、接着剤など引火性のあるものは、そばで取扱わない。

救急車を入れかえ

消防署では、このたび2台ある救急車のうち1台を入れかえました。今回購入した車は、「ダンカ」をすばやく乗せられるよう工夫がされているものです。

日ごろから防火への備えを

テレビで防災キャンペーン

テレビで防災キャンペーンが放送されています。

BSNでは毎週金曜日の午前十時二十五分から「防災ミニ百科」というタイトルで、毎週日曜日の午前七時二十五分から「くらしの中の防災」というタイトルで、それぞれ五分間放送されています。

十二月と来年一月分の放送テーマは、火災や地震などです。ぜひご覧ください。

新しく買う場合は…

▽「対震自動消火装置」のついたものを選び、説明書をよく読んでから使用する。

▽使用する部屋に合った構造の機種を選ぶ。

「寝たばこ」はやめましょう

たばこによる火災は、毎年火災原因の一番を占めています。「投げ捨て」や「消し忘れ」をしないよう喫煙者は注意しましょう。

また「寝たばこ」は大変危険です。最近の傾向として、老人の寝たばこの不始末から出火―焼死している例が多くあります。家族の方も十分に注意をしましょう。

また不意の出火に備え、日ごろから消火器、防火用水などの点検を行うとともに〝我が家の防災計画〟を家族みんなで話し合っておきましょう。

お買物、ご用命は市内で

花に託して心を贈る
慶弔用盛花、結婚用花束、ブーケ、会場装飾花
新津市新町1丁目 小林生花店
TEL (2)1080・(2)5707
(各流派いけばな教室案内)

フジカラー友の会募集中!
カメラ・8ミリ各社新機種在庫豊富
D.P.E.撮影なら安くて迅速な当店へ
みんなの店 カメラのサカヅメ
本店・新津市本町4−5−6 (2)0045(代)
新町店・新津市新町1−2−29 (2)2484